

社会事象に対する 科学的分析力を

日本社会事業短期大学助教

五味百合子

(三二回生)

「日本女子大はこの頃学生数の割合に、社会事業方面に進出している方が割合少なく、特に、むかしの社会事業学部時代の人々の後に、つづく若い方々が少ないのは、どうした事でしょうか。」

四年生の大学なので、二年の教養課程で一般の基礎教養が終った後に、二年間の専門教育を受け、訓練された社会事業家として活躍するためには、現在の段階として、ほぼ理想的な課程と云えると思うのですが、と社会福祉のために進むという目標を立てた人々のグループをはっきり分けて、それがたとえ少数であっても集中的な訓練の機会が後期の人々に与えられ、意欲的な研究をすすめて頂きたいものだと思います。

社会事業を専攻する

私もが特にはつきり把握しておかなければならないことは社会事業のおかれています立場、猪展してきた過程と云うものについての正しい認識を持つことではないでしょうか。

社会事業は、資本

主義社会に於て存在するものであり、そういう社会制度に依って生ずる矛盾を補うものがありましょう。資本主義を謳歌するかどうかは別として、その上に立っているものであることは否めないと思います。

階級間の矛盾から生ずるいわゆる社会問題の解決のための方法として、社会政策と社会事業とがあるわけでありますが、社会政策は申し上げるまでもないことですが、資本主義国家の生産関係を維持保全するために、即ち資本家と労働者という利害の対立の闘争を国の立場から調整しようとするものでありましょう。社会事業は労働条件の維持改善と云うことに関係なく、人の遭遇する又は社会政策の不備の結果生ずる生活上の障害に対する対

策とか施設とかをいうものであります。社会事業の対象者はこう云う様な社会問題を背負って社会の底に沈んでゐるものを云うのですが、今日では労働意欲を持っており機会さえあれば働きたい人までもその対象となっております。

そこで、私達は世の中に対する考え方をはつきりさせ、社会事業と云うものの役割を知り、それを実行するための手段を修得することが必要でありましょう。しかし、社会事業は単なる技術ではなく、又社会の矛盾を解決するための根本的なものでもありません。その辺の認識を私どもはあやまってはならないと思ひます。

何事に対してもですが特に社会事業については、個人の適性と云うことが考えられなければなりません。人間関係を取扱うために、女性にはまことにふさわしい分野と云えると思ひます。社会福祉学科に学ばれる皆さんは、進んでその方面に進出してほしいと思ひます。

貧困を解決するために社会事業に何らの役に立たないと云う意味で、若い時代は社会事業を否定するものですが、解決の根本的手段について真剣に考究する事は社会事業とは別な立場で私どもにとつて、非常に大切なことであります。けれども、現実存在する貧困

